

ネイチャーウォッチングだより

令和8年9月30日(水)

愛知教育文化振興会

協力:岡崎大学・岡崎短期大学

9月27日(日)、ネイチャーウォッチングA日程、第2回「干潟の鳥ウォッチング」を開催しました。会場は田原市緑が浜公園前の汐川干潟です。幸いにも心配された雨が降ることもなく、24組80名の親子の皆さんが、バードウォッチングと干潟の生き物観察を楽しみました。

汐川干潟は三河湾の最も奥にあり、豊橋市と田原市の間に広がる広大な干潟で、サギやシギ、チドリ、カモなど多くの水鳥が見られる場所として知られています。講師の宇都宮森和先生によると、近年工場などの建設のために海の埋め立てが進められ、干潟もずいぶん減ってしまったそうです。「以前は現在の8倍くらいの面積があったのです。生き物が多くすむ干潟を守ろうという人々の努力によって今の汐川干潟が残されているのですよ。」と説明されました。



【野鳥クイズに挑戦！】

野鳥観察が始まるころには潮が引き、干潟が現れ始めていました。特に多く見られたのは白いサギです。「あのグレーのサギはアオサギかな。」「黒いのはカワウだよ。」など、双眼鏡やフィールドスコープで見えた野鳥を写真と見比べながら確認しました。白いダイサギが魚を捕まえる様子や、遠くにオナガガモの

先生が「どうして干潟にはこんなに鳥が集まってくるのでしょうか。」と子どもたちに質問すると、「食べる餌があるから集まってくる。」「魚やゴカイなんかがいるから。」「すむ場所があるから。」と的確な答えが返ってきました。野鳥クイズにも子どもたちは積極的に答えていました。クイズを通して「オスとメスで姿が違う野鳥がいること」「成長につれて姿が変わっていく野鳥がいること」「夏と冬で羽の色や姿が変わる野鳥がいること」など野鳥の特徴を知ることができました。



【干潟にはどんな野鳥がいるかな】



【干潟にはどんな生き物がいるかな】

群れを見て感動する親子もいました。

後半は干潟にすむ生き物観察です。汐川干潟で見られる代表的な12種類の「生き物見つけカード」の写真とヒントを手掛かりに親子で一緒に探しました。イガイやカキ、オキシジミなどの貝類、チゴガニやヤドカリ、ゴカイなどが次々に見つかりました。野鳥との関わりを感じられる体験になったものと思います。最後に参加者アンケートから一部を紹介します。

自然の鳥を見ることができてよかった。干潟の貝は何の種類か、見つけるのが難しかった(子)

干潮時刻が近づくにしたがって、海水のある朝の海の姿から、海水が引いて干潟が現れる様子が本当に不思議で、驚いた。ドロドロ具合は、なかなか体験できない。親としては終わった後を気にしてしまいましたが、子どもはどの子も楽しんで取り組んでいたのではないかなと思います。(母)

双眼鏡での観察(静)と、干潟で実際に掘って生き物を観察(動)のセットでできたことが面白かったです。鳥をじっくりと双眼鏡で見ることはとても新鮮で楽しかったし、綺麗でした。干潟が時間とともにどんどん出現するのは目を見張りました。実際歩いた干潟は、生き物がうじゃうじゃ、泥にはしっかり足をつかまれ、スマートフォンで動画や画像を見るだけではわからない体験の鮮やかさを感じました。先生と個別にお話もできて、鳥に対する興味が益々湧きました。楽しい時間をありがとうございました。(母)



【参加親子 全員集合！】

似たような鳥がたくさんで同じ鳥かと思っていたが、違う鳥だと分かった。干潟でカニやヤドカリを自分で見つけられたのが嬉しかったが、鳥の見分けが難しかった。(子)

大きな望遠鏡を設置していただいていたので対岸のカモが見られて感動しました。たくさんの生き物を観察することができて良い経験になりました。(母)